

教育広報

県北の教育

発行所

福島県教育庁県北教育事務所

福島市杉妻町2番16号

電話024-521-2813

発行者 長谷川 浩文

巻頭言 「オリンピックなどから考えたこと」



県北教育事務所長 長谷川 浩文

今年、1年遅れの東京オリンピック・パラリンピックが開催され、福島市でもソフトボールと野球が行われた。前の東京オリンピックは私が生まれた昭和39年(1964年)に開催されたので、今年は57年ぶりの東京での開催だった。(ちなみにその年の6月には、新潟地震が起きている。)昭和と令和の東京オリンピックを比べると、開会式から時代の流れを感じる。また指導者のあり方も当然変わっているが、特に今回の東京オリンピックで私は3人の監督やコーチについて考えさせられた。1人目は女子バスケのトムヘッドコーチ。日本語で、自分の言葉で選手に思いを伝え見事な結果を残した。2人目は、柔道の井上康生監督。データ分析や意識改革を進め、大きな成果をあげた。そして3人目は、スケートボードの早川コーチ。中学生など若い選手にどんなアドバイスをしてメダルに結びつけたのか想像できない。

さて、今年もたくさんの学校を訪問し、県北らしいすばらしい授業を昨年以上に拝見した。その中でもベテランの先生方が、予想以上にタブレット等を活用している姿に驚かされ、指導技術がどんどん変

化、向上していると実感した。

私は、春の域内校長会議の際に、「オープンシェア革命」の話をした。それは、ダルビッシュ有投手や青山学院大学の陸上競技部が、変化球の投げ方やトレーニングの方法を一般公開し、そこから他の選手たちが技術を学び、さらに進化した技術を学ぶという好循環ができていくというものである。

学校でも研究授業のような改まった場だけでなく互見授業や職員室での話題などで、先生方が持っている指導技術を今以上に、積極的に「オープンシェア」することによって、その学校の指導力はさらに伸びていくのではないかと思う。例えば、先ほど述べたタブレット等の活用でも「こんな方法が効果的だった。」「これは失敗だった。」という話をベテランから若手まで何気なくできる雰囲気、ICTの活用の広がりにつながっていくのではないか。

また、お互いに授業について、自由闊達に、向上心を持って何でも言い合える雰囲気の職員室こそ、本当の意味での風通しのよい職員室なのではなからうか。県北の学校の職員室がそんな雰囲気になることをこれからも期待したい。

◆「懲戒処分ゼロ、学校・教職員事故等の減少を目指して」～教育は信頼の上に成り立つ～

標記の重点目標を掲げ、今年度がスタートし、折り返しを迎えました。現在のところ、重点目標を達成している状況にあります。これまでの各校の取組のおかげです。心より感謝申し上げます。

しかしながら、報告された学校・教職員事故等の中には、未然に防ぐことができたと思われるものや大事故につながりかねない事案が散見され、普段の勤務の様子、場合によっては個人の趣味・嗜好等を見直すことが必要と思われる。「このままでよいのだろうか」と思いながら、そのままにしてきたことはないでしょうか。10月4日付け「教職員の不祥事防止について(依頼)」を活用して、不祥事の未然防止を図るためにできることを見つけてみましょう。

例えば…、

<普段の勤務の様子から>

- 集金した公金を即日口座入金するなど、処理を適切に行い、徴収金のすべてを管理職が把握していますか。
- 個人情報や重要文書等を職員室の机上などに声をかけずに置きっぱなしにすることはありませんか。

<個人の性格、趣味・嗜好から>

- 自分が起こす可能性がある不祥事を自分の性格や趣味・嗜好から考えたことがありますか。
- 「これをしたら(言ったら)どうなる」という想像力を膨らませ、自分の言動にブレーキをかける術をもっていますか。

今後も信頼される学校で、子どもたちが健やかに成長することを願っています。

【学級づくり・授業づくりセミナー】

8月3日に予定していたセミナーがコロナ感染症対策のため、中止となってしまいました。しかし、セミナーへ向けて準備いただいた講師の先生方の発表を、県北域内の先生方に紹介したいと考え、HPへの資料のアップをすることにしました。優れた実践内容がまとめられ、学力向上につながる大きな示唆やヒントを得ることができると思います。資料アップは11月中を予定しております。

◆セミナー 講師紹介(敬称略)

国語	渋谷 朋子(蓬萊南小)	国語	渡邊 正志(桃陵中)
社会	吉田 賢吾(川原南小)	社会	角田 直之(福島二中)
算数	菊地 仁(川原小)	数学	村上 美紀(北信中)
理科	小野 啓(上保南小)	理科	山口 直木(福島三中)
外国語	桑野 亜紀(新野小)	英語	譽田由貴子(泉川中)
道徳	山室 紀幸(伊達小)	道徳	小林 倫之(二本松一中)
学活	渡邊 明伸(森合小)	学活	齊藤まつみ(福島一中)

今後も引き続き、授業スタンダードのポイント4(コーディネート)、5(まとめ・振り返り)を大切に授業づくりをお願いします。

※参考 指導の重点 (小学校) (中学校)



教材研究のとびら 参考資料1



D.

令和3年度 学校教育指導の重点 をもとに実践してきた取組を紹介します。

夢をかなえる県北の教育



Check

※ 実際の授業場面を想定したポイント4、5のヒントが掲載しております。



D.

【未来の教室 GIGA スクール】

ICTのアンケート調査から、約半数の教職員が「互いの考えを交換し共有して話し合いなどができるように、コンピュータやソフトウェアなどを活用することを指導する。」ことに対して「あまりできない」、「できない」と回答している。

ICT活用の意義・よさを共有し、活用方法を増やすため、授業実践を基にした活用例を紹介しています。



○情報モラル教育研究校

国見町立国見小学校、国見町立県北中学校

○ICT活用実践協力校

伊達市立伊達東小学校、伊達市立桃陵中学校

D.

【切れ目のない支援体制整備事業】

特別支援学校のセンター的機能を活用した相談支援・研修支援を行っています。

<こんなことができます！>

- 発達や学習・行動面で気になる幼児児童生徒のつまずきの背景・要因に応じた支援、障がいや病気により配慮が必要な幼児児童生徒の対応に関する助言
- 個別的教育支援計画、個別の指導計画の作成・活用支援
- 特別支援教育に関する教員の研修(ユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくり等)



※詳しくは、事務所ホームページをご覧ください。

地域連携推進指導員の有効・効果的な活用を今後もお願いします。



【心の教育、生徒指導、SC、SSW】

県北域内の児童生徒は、全国学力・学習状況調査の質問紙で、「自分にはよいところがあると思うか」の質問に対して、肯定的な回答「1 当てはまる」が、県や全国よりも低い傾向にあります。(小:全国比 -2.7ポイント、中:全国比 -4.1ポイント)。

今後も、自己肯定感や自己有用感を育む指導を、意識的に行う必要があります。

児童生徒の問題行動等の要因や背景は、複雑化・多様化しています。校内の組織的な対応とともに、心理の専門家のSCや、福祉の専門家のSSWを活用してみたいかががでしょうか。

◆◆ 実践協力校学校公開カレンダー(予定) ◆◆

○算数科・数学科コアT.	岳下小学校(11月11日)、清水中学校(12月2日)
○理科コアT.	北信中学校(12月9日)
○キラリ校	本宮小学校(11月15日)
○道徳教育推進校	石井小学校(12月1日)
○小中英語パートナーシップ校	本宮第一中学校、本宮まゆみ小学校(12月8日)
○「未来の教室」校	伊達東小学校(11月19日)、桃陵中学校(11月26日)



家庭教育推進県北ブロック会議

今年度の県北地区の家庭教育のテーマは「メディア(SNS)コントロールの在り方について」です。



学校関係者、PTA、企業、警察関係者等様々な立場の構成員により上記のテーマを協議する「家庭教育推進県北ブロック会議」を、7月8日(木)に福島県教育会館で実施しました。

スマホやオンラインゲームの普及により、家庭内では、「一緒にいる時間が増えたにもかかわらず親子の会話がないう」「スマホ育児が一般的になってきている。」等の問題が深刻化していることが明らかになりました。このことから、「メディアコントロール」と「親子のコミュニケーション」を家庭教育の両輪として捉えるべきであるという考えに至りました。

協議から見えてきた課題に沿った内容で、家庭教育関連事業を展開し、県北域内の家庭教育のさらなる充実を目指していきます。

地域学校協働研修会(放課後子ども教室の部)

10月7日(木)福島市吾妻学習センターで「地域学校協働研修会(放課後子ども教室の部)」を開催し、県北域内の放課後子ども教室スタッフや放課後児童クラブ関係者、各市町村行政担当者計30名が参加しました。

福島県学校教育相談員山本和宏氏より、「気になる子どもの理解と対応について」と題して効果的な対応のポイントや上手なほめ方・叱り方などについて講演していただきました。

また、特定非営利活動法人ビーンズふくしま理事長若月ちよ氏を講師に、日々の子どもの関わりの中で共感や受容を大切にすることを旨とした「気持ちをも『聴く』ワーク」の演習を行いました。

参加者の感想の中には、「現場で他のスタッフと共



有し、研修内容を生かしていきたい。」「今後の魅力的な放課後づくりの参考にしたい。」といった声がありました。

【県北授業レシピ】～授業に魔法のひとさじを～

学校訪問等で参観した授業で、効果的だった教師の発問やコーディネート、まとめや振り返りの様子などをホームページ上で紹介しています。

ぜひご覧いただき、様々なアイデアや効果的な指導方法を共有し、今後の授業改善のヒントにしていただきたいと思います。

現在掲載されているレシピの対象学年、教科等、タイトルは、以下の7つです。

- レシピ#001 (中学年 外国語活動)
「望ましい人間関係を基盤とした授業づくり」
- レシピ#002 (認定こども園 年長児保育)
「子どもが動き出すまで待つ」
- レシピ#003 (高学年 理科)
「ICT機器の活用から必然性のある話し合いへ」
- レシピ#004 (中学校 国語科)
「教室に響く声は…?」
- レシピ#005 (中学校 道徳科)
「一人一人に学びを成立させる教師の思い」
- レシピ#006 (中学校 国語科)
「短歌の鑑賞を深めるコーディネート」
- レシピ#007 (小学校 算数科)
「働かせたい「見方・考え方」を明確にした授業づくり」

「授業のワンシーン」コーナーで、子どもの発言や教師の動きかけの様子をダイジェスト版で紹介しています。「ここがオススメ!」コーナーは、指導のポイントや授業で大切にしたいことなどを確認できるようにになっています。


県北授業レシピ

レシピ #006 R3.8.26

短歌の鑑賞を深めるコーディネート



【安達地区】
中学校 国語科の授業より



授業のワンシーン





ここがオススメ!



「分かる・できる」授業を通して、子どもたちを元気にしていきましょう!

その授業づくりの一助となることを願って、今後も掲載していきます。



